

自己紹介とこれまでに担当した仕事

事務局次長と多文化共生グループのグループリーダーを兼務。

外国人住民への情報提供・情報発信、多文化対応力を向上させるための講座、助成金運営、外国人住民の子育て支援、
外国につながる子どものための教育支援、地域日本語教育等の事業運営を統括しています。

- 「**多言語医療問診票**」の運営
- 外国につながる**子どもたちの教育支援**に関する調査や連絡会の開催
- 多文化共生に関する情報をまとめたポータルサイト
「かながわ・こみゅにてい・ねっとわーく・さいと」の立上げと運営
- **大規模災害**発生時における外国人支援に関する事業
- 外国人住民に情報を提供する**「多言語支援センターかながわ運営事業」**
- **地域日本語教育**に関する仕事
- **かながわ民際協力基金**の運営



※多言語医療問診票は、NPO法人国際交流ハーティ港南台との協働運営です。

2025年11月26日（木）14:00～16:00
公益財団法人かながわ国際交流財団 藤分 治紀

公的機関職員の意識啓発

～多文化対応力向上講座～

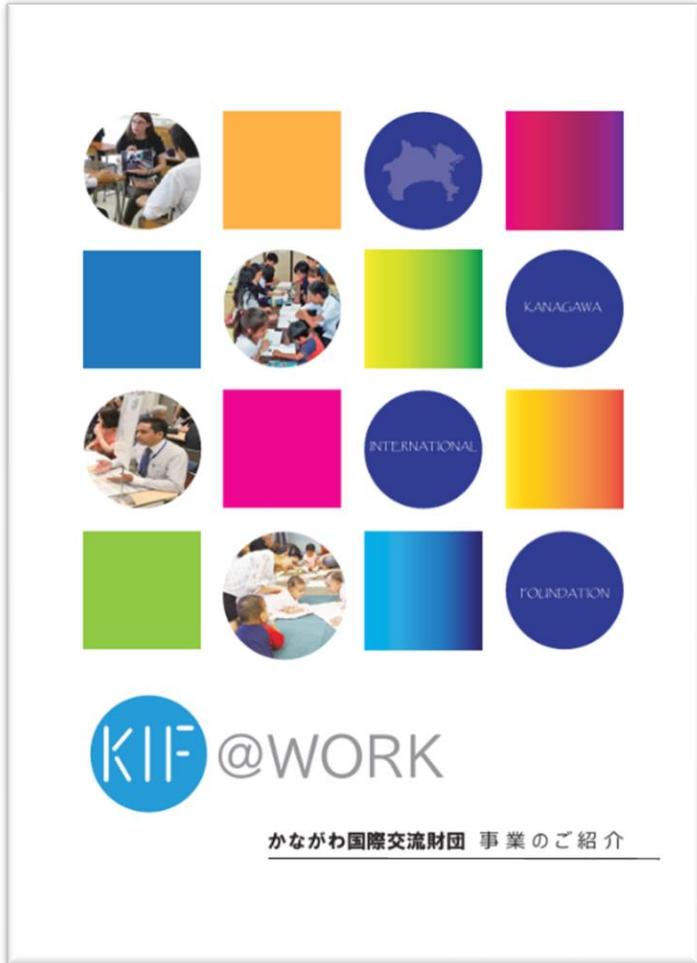
1 かながわ国際交流財団について

かながわ国際交流財団 (KIF)について

- 1977年に神奈川県国際交流協会が設立
- 2007年かながわ学術研究交流財団と統合し「かながわ国際交流財団」
- 横浜事務所：横浜駅の近くにある「かながわ県民センター」の13階
- 本部：葉山町の湘南国際村



事業紹介パンフレット



<https://www.kifjp.org/shuppan/about>



2 神奈川県にくらしている外国人の概況

神奈川県の外国人に関する数字

・外国人数

284,889

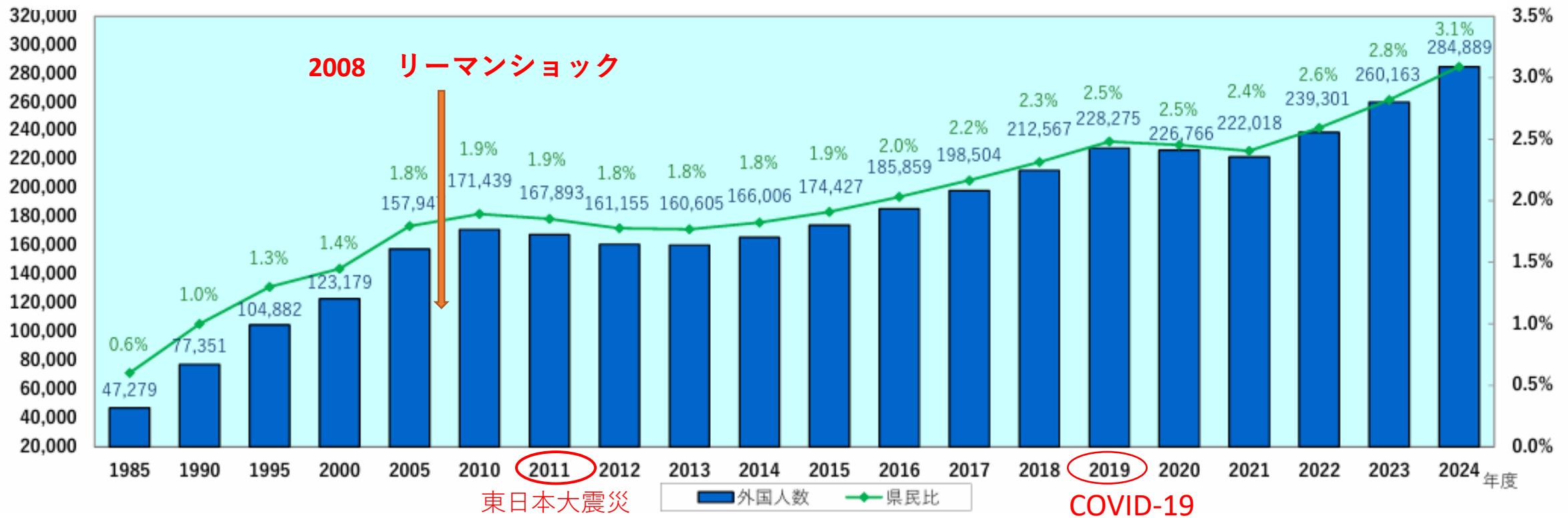
・国・地域の数

179

神奈川県調べ 2025年1月1日時点

https://www.pref.kanagawa.jp/documents/27970/gaikokujinsuu_20250101.pdf

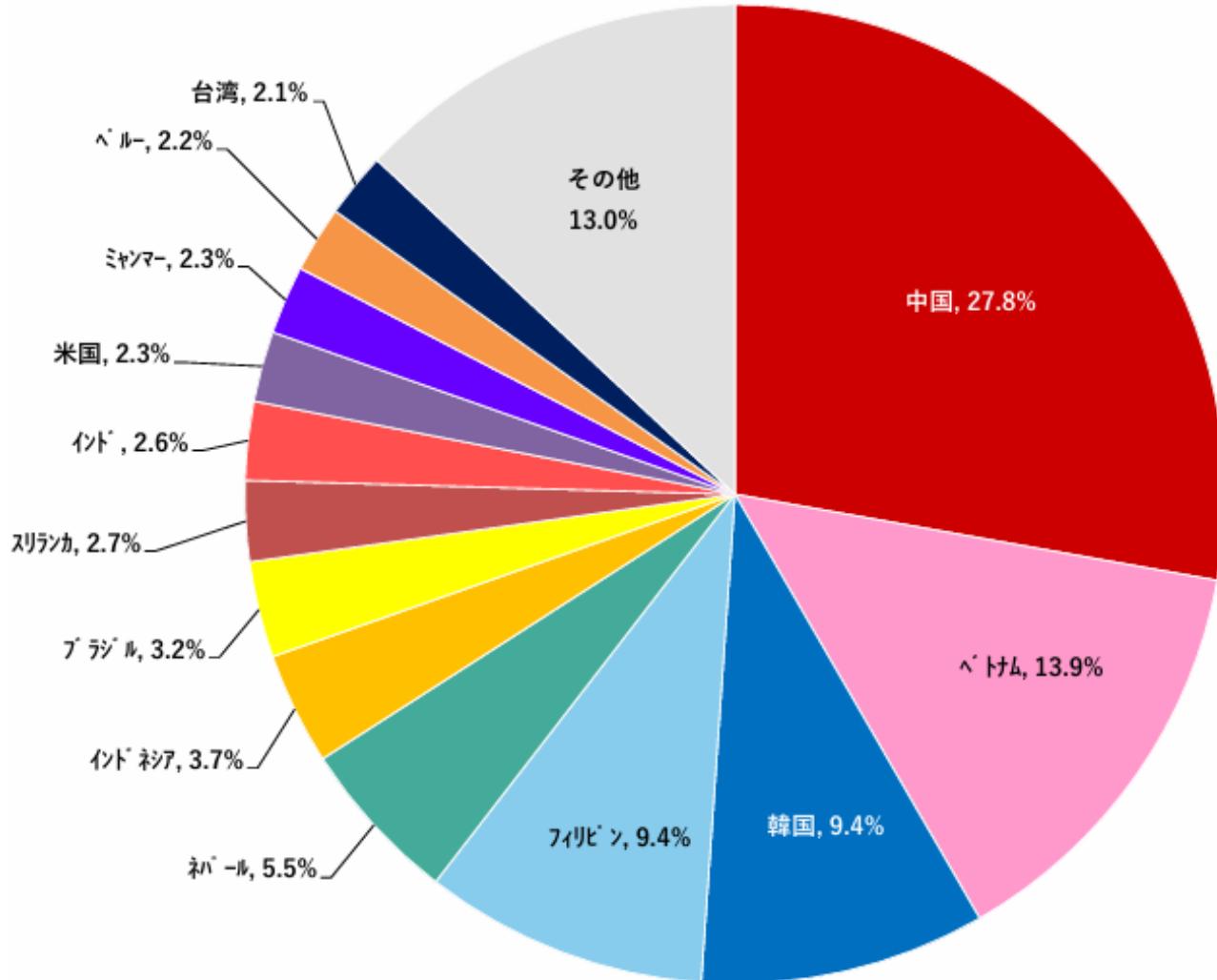
外国人数と県民比



・2011年度までは外国人登録法に基づく外国人登録者数、2012年度以降は住民基本台帳上の外国人数
(なお、2012年度までは12月31日現在、2013年度以降は1月1日現在のデータ)

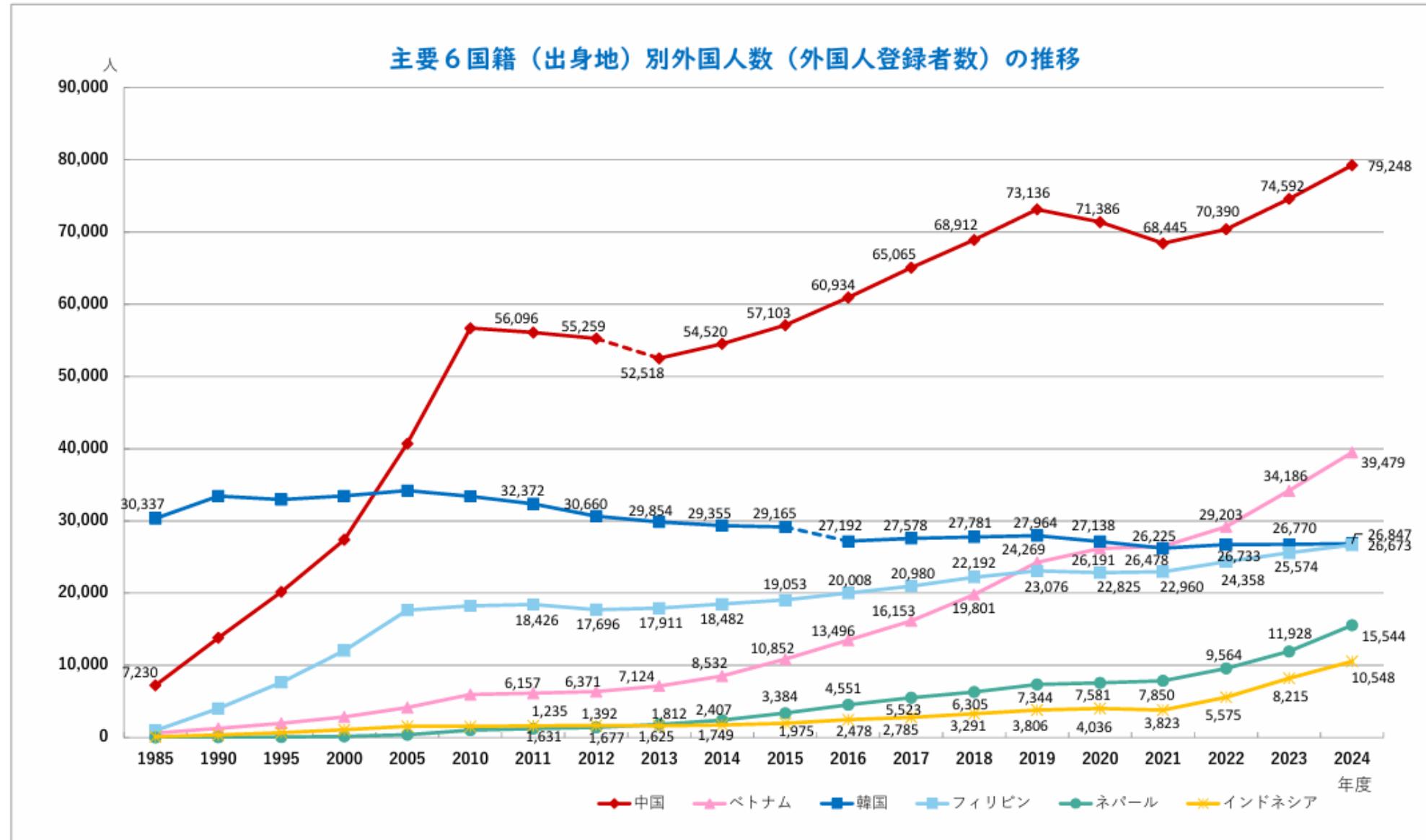
※神奈川県ホームページより引用
<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/27970/gaikokujinsujyoui6.pdf>

主要国籍（出身地）別外国人の割合



※神奈川県ホームページより引用
<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/27970/gaikokujinsujyoui6.pdf>

主要6国籍（出身地）別外国人人数（外国人登録者数）の推移



※神奈川県ホームページより引用

<https://www.pref.kanagawa.jp/documents/27970/gaikokujinsujouyoui6.pdf>

神奈川県は、ベトナム、ラオス、カンボジア出身者が多い県です。



姫路定住促進センター
('79.12～'96.3)



大和定住促進センター
('80.2～'98.3)



大村難民一時レセプションセンター
('82.2～'95.3)



国際救援センター
('83.4～'06.3)

公益財団法人アジア教育福祉財団 難民事業本部作成資料より
<https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/nanmin/yusikishakaigi/dai4/siryou3sankou1.pdf>

3 「多文化対応力向上講座」について

(1) 講座の目的・内容と工夫

<目的>

- ① 外国人住民の文化・背景と生活課題の理解
- ② 「やさしい日本語」の普及
- ③ 社会資源の紹介も

<工夫>

- ① 外国人ゲスト
- ② インタビュー動画を活用
- ③ グループディスカッション
- ④ ロールプレイ



頭
心
足
で学ぶ

(2) 事業開始の きっかけと構成

- ① 現行中期計画2021～2025年策定
のためのアイデア出し
- ② 日頃のニーズの受け皿として
- ③ 公的機関対象、教育分野対象、
ミュージアム対象という
3階建て構成



(3) これまでの実績と今年度のこと

	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
回数／参加者数 (公的機関一般)	15回／552名	14回／446名	14回／464名	14回／596名	14回程度
回数／参加者数 (教育分野)	6回／894名	6回／1,035名	6回／929名	11回／1,719名	11回程度
回数／参加者数 (美術館関係者等)	2回／78名	2回／42名	2回／47名	2回／55名	2回程度
補足	教育分野の6回中1回は2日間の開催を1回としてカウント、5回は動画納品によるオンデマンド形式	教育分野の6回中1回は2日間の開催を1回としてカウント、5回は動画納品によるオンデマンド形式	教育分野の6回中1回は2日間の開催を1回としてカウント、5回は動画納品によるオンデマンド形式。 美術館関係者等対象回のうち1回は2日間の開催を1回としてカウント。	教育分野の11回中5回は動画納品によるオンデマンド形式。 国際教室担当教員を対象とする回6回を追加。開催方法はオンライン開催や対面開催。	教育分野の11回中5回は動画納品によるオンデマンド形式。 警察学校の生徒を対象とする回(3回)を追加。参加者数は800～900名程度増加する可能性あり。
合計回数／合計参加者数	23回／1,524名	22回／1,523名	22回／1,440名	27回／2,370名	27回程／3,000名程？

(4) 参加者の概要

- 医療関係者(医師、看護師)



- 薬剤師

- 助産師、保健師等

- 横浜市こにちは赤ちゃん訪問員

- 保育士・幼稚園教諭

- 市町村職員

- 県職員

- 神奈川県消費生活相談員

- 神奈川県水道事業従事職員等

- 生活保護担当者・相談員



- 警察学校生徒(2025年度から開始)

- 高齢者介護施設職員



- 行政書士

- 県公園協会職員及び県立公園の管理・運営を担う職員

- 社会福祉協議会職員

- 児童相談所等職員

- 児童福祉施設職員

- 5年次小中高等学校・特別支援学校教員・養護教諭・栄養教諭(2025年度からは4年次研修に完全移行)

- 県内市町村小中学校国際教室担当教員

- 市町村教育委員会指導主事

- 政令市を除く放課後児童クラブ・放課後子ども教室の職員等



- 図書館職員等

- 美術館関係者



(5) 参加者の 感想

■施設内に良い伝導が出来るように活かしたい。

■やさしい日本語の必要性を庁内に周知していきたいと思います。

■今日のことを持ち帰り、ほかの課員、職員に共有したいと思います。

■保護者対応はつい身構えてしまいますが、もっと気楽に話しかけたいと思います。

■多文化対応とは言語スキルだと思い込んでいましたが、様々な角度のアプローチがあり、大変勉強になりました。



(6) 参加者の意識や効果についての考察

～「無関心層」への波及・啓発との関連～

- 今後必要なことと考えて参加（変化する社会への対応） ⇒ 自分の願い・思いを信じていいんだ！
- 広報の工夫（例：講座の実施と併せて市町村職員への広報） ⇒ 「無関心層」への波及
- カリキュラムへの組込み（例：県総合教育センター教員研修、県警察学校研修、県薬剤師会認定研修） ⇒ 「無関心層」への啓発にも
- 他機関との連携（例：県市町村振興協会（市町村研修センター）、県教育委員会、県総合教育センター、児童相談所、薬剤師会、公園協会、行政書士会） ⇒ 「無関心層」への啓発にも

4 まとめ